

# 野瀬建築便り

## 鏡花水月

夜風が心地よい季節になりました。もうすぐ十五夜ですね。お月見の季節になると、昔の人の風習や、言い伝えなどに興味が湧いてきます。今、大河ドラマで話題の平安貴族社会。この頃のお月見はどんなスタイルだったのでしょうか…。

お月見は平安時代に中国から伝わりました。貴族達の間で広まったお月見は、池に船を浮かべて水面に映る月を眺めたり、お酒の杯に映る月を眺めて楽しんだりする、月を直接見ない静かな宴でした。「鏡花水月」という言葉は、鏡に映った花や、水に映った月の意味から、目には見えても手に取れないことを指します。ゆらゆらと揺れる水面に映る月を愛でて、手に掬い取れないはかなさを感じとっていた平安の人々は、繊細な心の持ち主だったのかも知れませんね。源氏物語にも月を詠んだ歌が記されていますが、は

かなくて悲しい歌が多く見られます。

京都大覚寺の大沢池は、船から見る風流なお月見で有名です。今から千二百年前、嵯峨天皇が中国湖南省の洞庭湖を模して造ったとされる日本最古の庭池で、今もその形を残しています。毎年この季節に開かれる観月会は、唐の国の船遊びを模したといわれています。架空の動物の首を形どった二艘の龍頭舟、鷓首（げきしゅ）舟がゆっくりと水面を進みます。園内はライトアップされ、船着場に設けられたステージでは満月法会が行われます。光の中に浮かび上がる豊作を祈る行事は、まるで平安時代にタイムスリップしたかのようです。

水面に揺れる月を見ながら、風流な雰囲気を感じる時間。今年は平安貴族の気分で粋なお月見を楽しんでみませんか？

